

II-181 ゴルフ場開発計画に関するアンケート調査

山口大学工学部 浮田 正夫、中嶋 行彦、中西 弘

1. はじめに

昭和62年のリゾート法成立以来、ゴルフ場開発の第3次ブームが起こり、平成2年のバブルの崩壊により、冷え込みがみられるものの、なお各地でゴルフ場開発について、賛否両論活発な論議を呼んでいる。宇部市においても水道水源である厚東川流域に5つの計画があり（図1）、その是非をめぐって、大きな社会問題となっている。著者らは、市民の意見分布を把握し、とくに上流下流住民の認識の差、下流住民の水源上流住民への支援可能性に注目したアンケート調査を行った。ここではその結果の概要について報告する。

2. 調査方法

平成3年12月19日～21日にかけて、無差別戸別訪問し、面談依頼せずに郵便受に投入し、文書により郵送回答を依頼した。回収期限は平成4年1月16日までとした。散布数は1988通で、散布場所は校区毎に約4%相当の人口比例数無差別に52箇所散布した。ただし開発計画の地元である小野地区については、人口が少ないので他地域の5倍程度に重点散布した。質問項目は、回答者の属性の他、ゴルフ場開発の賛否、その理由、水源上流域への費用負担の是非とその限度、支援費用の用途等である。

3. 調査結果

回収枚数は一部家族が複数の回答を寄せたものを含めて619通で、回収率は31%であった。

(1) ゴルフ場開発計画について 小野湖畔の計画については賛成12%、反対83%、小野湖下流の支流流域である藤河内地区の計画については賛成14%、反対81%、小野湖上流秋芳・美東地区の計画については賛成13%、反対78%であった。地元の活性化を期待する小野地区住民の意見に限ってみれば、小野湖畔の計画については賛成57%、反対33%、藤河内地区の計画については賛成54%、反対37%、秋芳・美東地区の計画につ

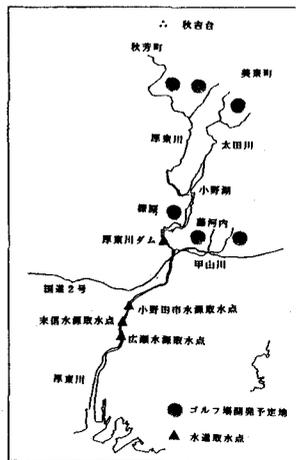


図1 ゴルフ場計画予定地

表1 ゴルフ場開発計画について

ゴルフ場計画	回答者	回答者数	賛成	どちらかという賛成	どちらかという反対	反対	不明
小野湖畔	全体	619	6.8	5.5	21.2	61.7	4.8
	小野地区	46	47.8	8.7	10.9	21.7	10.9
藤河内地区	全体	619	7.8	5.8	20.2	60.7	5.5
	小野地区	46	50.0	4.3	6.5	30.4	8.7
秋芳美東地区	全体	619	6.0	7.1	24.1	54.0	8.9
	小野地区	46	21.7	10.9	10.9	30.4	26.1
小野湖畔	ゴルフをする人	133	13.5	10.5	24.1	48.9	3.0
	ゴルフをしない人	477	4.8	4.2	20.8	66.2	4.0
秋芳美東地区	ゴルフをする人	133	15.0	13.5	26.3	39.8	5.3
	ゴルフをしない人	477	3.6	5.5	23.9	58.7	8.4
小野湖畔	男	375	8.0	7.2	22.1	58.1	4.5
	女	223	5.4	3.1	19.3	69.5	2.7

いては賛成32%、反対41%であった。地元の開発については賛成が1/2強であるのに、上流域の開発に対しては、賛成が1/3程度であるのは注目される。反対は年輩者に多い傾向があった。ゴルフをする人としらない人では、しないの方が反対の割合が高い。男と女では女の方がやや反対の割合が高い(表1)。

(2) 賛成反対の理由 反対理由として、肥料や農薬による水質汚染がもっとも多く、次いで水資源の損失、森林の破壊、活性化につながらないという人が多い。ゴルフ場ができた場合に飲み水に不安を感じる人の割合は小野湖畔、藤河内、秋芳美東それぞれ83、80、74%と、反対意見の割合83、81、78%と傾向が一致している。一方、賛成理由としては、近くに働き口が増えるがもっとも多く、次いで税金の地元還元、ゴルフが楽しめる、土地買収で地元が潤う、建設関係の仕事が増えるの順であった。

(3) 上流域への費用負担について 64%の人が理解を示し(表2)、水道料金の形をとるとすれば、負担意志のない人を含めて、平均して現状料金の10%程度までの負担が許容されるという結果であった(表3)。ゴルフをする人しない人の比較では、する人の負担限度は8.8%とやや低い。反対の人と賛成の人の間にも若干の差がある。その費用の用途は表4にまとめるように、意外に上流域の排水処理設備の整備や浄水場での高度処理をあげる人が多く、ゴルフ場に賛成の人、ゴルフをする人に浄水高度処理をあげる人が多い。小野地区では農林業の保護、水源林の買収、ゴルフ場代替策をあげる割合は比較的低い。

(4) 年齢差の傾向 図2にゴルフ場計画の賛否、費用負担の賛否、負担限度の年齢による差を示している。50代で反対意見、費用負担の賛成意見がやや低めの傾向を示し、収入条件を考慮すれば負担限度もそれに対応した結果となっている。また、地元での計画反対は年輩者に多い傾向が見られた。

4. おわりに

宇部市民に対するゴルフ場開発計画についてアンケートを行った結果、約80%の人が反対の意見をもってることがわかった。その理由の主なもの肥料や農薬による飲み水の汚染に対する心配である。地元上流地区は活性化を期待し、地元の計画には賛成意見が過半数であるが、上流地区の計画には、否定的である。

上流域への何らかの費用負担について、約2/3の人が理解を示した。水道料金の形をとるとすれば、平均して現状料金の10%程度までの負担が許容されるという結果であった。

上流地区と下流市民の間には認識のずれがあり、今後積極的な対話の場をもつことが重要である。

表2 下流域は上流域に対して水源保全等のための費用を負担すべきか

	回答者数	どちらか		どちらかと		不明
		そう思う	そう思うという	どちらかという	そう思わない	
全体	619	33.8	30.2	10.8	19.2	6.0
小野地区	46	50.0	6.5	2.2	13.0	28.3

表3 水道料金を通しての費用負担の限度平均値(ゴルフ経験等による差)

	全体	ゴルフをする人	ゴルフをしない人	ゴルフ場に賛成の人	ゴルフ場に反対の人
負担の限度%	10.2	8.8	10.7	11.6	10.2

表4 その費用はどのような用途にあてるべきか

	ゴルフ場に代わる振興策	水源かん養の買収	農林業の保護振興対策	上流の排水処理施設の整備	浄水場での高度処理
全体	12.1	19.7	18.1	42.6	23.7
小野地区	8.7	6.5	13.0	41.3	19.6
ゴルフ場に賛成の人	10.5	11.8	13.2	32.9	34.2
ゴルフ場に反対の人	12.9	21.6	19.3	44.8	22.0
ゴルフをする人	9.8	18.0	16.5	23.7	30.8
ゴルフをしない人	13.0	20.5	18.7	43.8	21.6

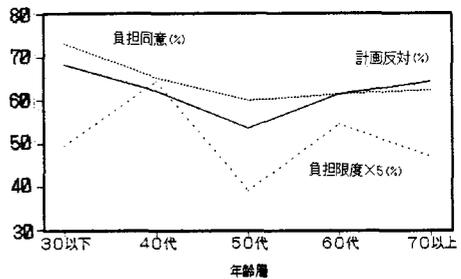


図2 年齢差によるゴルフ場計画に関する回答分布